

研修レポート

名古屋第一赤十字病院 研修医

新城市民病院での研修では、主に外来予診、救急対応、入院患者の担当をさせていただきました。

毎日午前中は外来予診を担当しましたが、普段の救急外来では問診をないがしろにしてしまうような、患者 ADL の詳細な聴取や、生活背景・家族背景をしっかりと問診することが重要であると実感しました。患者は高齢者が多く、帰宅可能な患者でも老夫婦で生活しており面倒を見ることが困難な場合は入院して経過観察するなど、柔軟な対応をしており、業務が忙しい中で満足度が高い医療を提供していることが印象的でした。

インフルエンザの流行時期で発熱患者が多く訪れました。普段救急外来での診療では特段意識することはありませんでしたが、新城では先生方に検査前確率や検査の意義について丁寧にご指導いただきました。大変勉強になると共に、普段の診療では検査の閾値が低く如何に検査に頼りきりであったかということを反省しました。

また MSW さんの講義や、サマリアの丘の見学では、退院後の患者が入居する施設や退院後のサービスについて学ぶことができました。高齢化に直面する中で、老々介護や介護の人手不足、患者本人・家族のニーズを満たすことの難しさ、施設もなかば飽和状態であるといった厳しい現状を知り、地域医療には限らない高齢化社会の実情を改めて実感しました。

2 週間という短い間でしたが、普段の診療とは異なることを多く学ぶことができました。

最後になりますが、丁寧に指導して下さった総合診療科の先生方、また新城の過ごし方についてアドバイスして下さった事務の方に感謝しております。特に指導医として担当していただいた福島先生には、お忙しい中抗生剤やレントゲンのレクチャーもしていただき、大変勉強になりました。貴重な機会を頂きありがとうございました。